

# 【中期経営計画】東京メトロプラン2018

キーワード

安心の提供

成長への挑戦

「安心の提供」「成長への挑戦」をキーワードとし、引き続き各種施策を積極的に進めていきます。

## 安心の提供

「安心=安全+サービス」の考えのもと、「世界トップレベルの安心」を提供する地下鉄を目指し、ハード・ソフト両面での各種施策をこれまで以上に加速させていきます。

優れた技術や考え方を取り入れ、困難な課題にも積極的に取り組んでいきます。

## 成長への挑戦

「安心の提供」を大前提とした上で、新たな価値を生み出す取組の全てを「成長」と位置づけます。需要の創出や関連事業の拡大、海外鉄道事業の新たな展開、業務提携などにも積極的に取り組んでいきます。

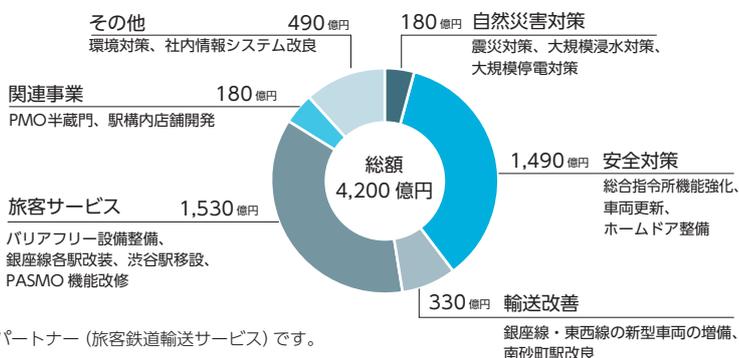
## 経営基盤の強化

「安心の提供」「成長への挑戦」の実現を確かなものとするために、経営の仕組みの構築、環境保全活動、効率的な事業運営、オープンで活き活きとした企業風土づくりなどに取り組み、経営基盤の強化を図っていきます。

## 設備投資計画

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会も見据え、首都東京の重要な交通インフラに寄せられる期待に応え、全てのお客様に「安心」して地下鉄をご利用いただけるよう、自然災害対策・安全対策の強化やサービス向上に資する施策の加速化とともに、新規施策の追加も合わせて、3か年の設備投資額は、過去最高の規模となる4,200億円を見込んでいます。

\*東京メトロは東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会オフィシャルパートナー（旅客鉄道輸送サービス）です。



## 経営目標値

### 連結キャッシュフロー

当期純利益 + 減価償却費の3か年総額

2016年度～  
2018年度目標 **3,890億円**

企業の実力を端的に表すキャッシュ創出力は、今後も長期的に増加させていく必要があります。前計画に引き続き連結キャッシュフローの増加を目指します。

### 連結D/Eレシオ

債務残高/純資産

2018年度末目標 **1.0倍**

投資に伴う負債増加が見込まれる中でも、一定の財務の健全性を確保した経営を行い、連結D/Eレシオ1.0倍を目指します。

### 連結ROA

営業利益 / ((期首総資産 + 期末総資産) / 2)

2018年度末目標 **6.0%**

積極的な投資活動によって資産が増加するものの、連結ROAは6.0%の水準の確保を目指します。

## 2016年度の主な実績

### 自然災害対策

高架橋柱耐震補強 84本 (累計1,148/1,236本)

出入口大規模浸水対策 16か所 (累計141/412か所)

### 非常用走行バッテリーの搭載

銀座線 14編成 (累計21/40編成)

### 長大橋りょう区間への非常用走行バッテリー整備完了

日比谷線 東西線 千代田線

### 新型車両の導入

銀座線 9編成 (全40編成導入完了)

日比谷線 2編成 (累計2/44編成)

千代田線 10編成 (累計33/37編成)

### バリアフリー設備整備

エレベーター1ルート整備 (整備率83.2%)

神田駅 入谷駅 (東) 飯田橋駅 江戸川橋駅

多機能トイレの整備 (整備率97.8%)

神田駅

### 利便性・快適性の向上

サービスマネージャーの配置駅拡大 (累計14駅)

浅草駅 秋葉原駅 新宿三丁目駅

明治神宮前(原宿)駅 六本木駅

旅客案内所の増設 (累計5か所)

上野駅

### 海外鉄道事業の新たな展開

ベトナム国ハノイ市に現地法人設立 (2017年4月営業開始)



高架橋柱耐震補強



日比谷線新型車両

# 安心の提供

## ■ 自然災害対策

- ・震災対策では、高架橋柱(約1,200本)、石積み擁壁(約1,800m)の補強を進めています。
- ・大規模浸水対策では、当社の駅と接続する民間事業者の出入口を含め、約400か所の対策を進めます。



大規模浸水対策後  
(完全防水型出入口設置)

- ・大規模停電対策では、長大橋りょう区間4か所への非常用走行バッテリーの整備に加え、銀座線・丸ノ内線の車両への非常用走行バッテリーの搭載を進めます。

## ■ ホームドアの整備

- ・お客様のホームからの転落事故や列車との接触事故を防止するため、全駅へのホームドア整備を進めます。



銀座線ホームドア(イメージ)



東西線ホームドア(イメージ)

	設置開始時期	整備完了予定時期
銀座線	整備中	2018年度上期*1
丸ノ内線	全駅整備済	
日比谷線	2020年度	2022年度
東西線	2017年度	2025年度
千代田線	2018年度*2	2019年度
有楽町線	全駅整備済	
半蔵門線	2017年度	2023年度
南北線	全駅整備済	
副都心線	全駅整備済	

\*1 大規模改良工事を行っている新橋駅・渋谷駅を除く。

\*2 北綾瀬駅・綾瀬駅(北綾瀬方面行ホーム)整備済

## ■ 新型車両の導入

- ・新型車両の導入や既存車両のリニューアル工事等の実施により、さらなる安全性の向上に加え、車両内の快適性及び省エネルギー性の向上を図っていきます。

### 新型車両の導入

- 銀座線** 2016年度導入完了
- 丸ノ内線** 2018年度から順次営業開始
- 日比谷線** 2016年度から順次営業開始
- 東西線** 2016年度から順次営業開始(増備編成)
- 千代田線** 2010年度から順次営業開始

### 既存車両のリニューアル工事の実施

- 東西線** 2012年度から順次営業開始
- 南北線** 2016年度から順次営業開始

## ■ 輸送サービスの改善



東西線南砂町駅改良後イメージ

■ 新設箇所

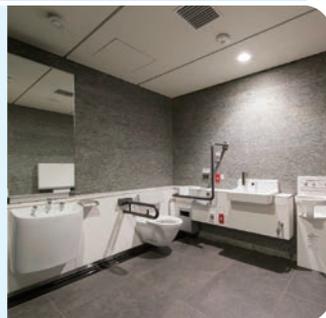
- ・東西線では、混雑緩和対策として、飯田橋駅～九段下駅間の折返し線の整備のほか、茅場町駅、木場駅及び南砂町駅の大規模改良工事を進めます。
- ・その他の路線では、銀座線浅草駅構内の折返し線整備のほか、丸ノ内線方南町駅、千代田線北綾瀬駅のホーム延伸等の大規模改良工事を進めます。

## ■ バリアフリー設備整備

- ・全駅へのエレベーター1ルート整備を進めるとともに、病院に近い駅、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の競技会場最寄駅等で複数ルートの整備を進めます。また、乗換えルートの整備も進めます。
- ・全駅への多機能トイレの整備を進めます。

\* 東京メトロは東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会オフィシャルパートナー(旅客鉄道輸送サービス)です。

多機能トイレ



## ■ 銀座線リニューアル

- ・2017年12月30日に上野駅～浅草駅間の開通90周年を迎える銀座線では、より快適にご利用いただけるよう、リニューアルを進めています。
- ・浅草駅から神田駅までの下町エリアの駅改装は、2017年度に完了予定です。



上野駅  
改装後イメージ

## ■ 利便性・快適性の向上

- ・サービスマネージャーの配置拡大に加え、旅客案内所を増設し、6か所とします。また、案内サイン・自動旅客案内装置をリニューアルし、全てのお客様に充実した情報をわかりやすくご案内します。
- ・2019年度までの一般トイレ全個室の洋式化の完了を目指すほか、温水洗浄便座、手指乾燥機、便座クリーナーを備えた清潔で快適なトイレを順次提供します。



旅客案内所

# 成長への挑戦

## ■ お客様ニーズへの対応



タイ旅行博ブースの様子

マーケティング機能を強化し、広くお客様のニーズを収集し、分析することによって、お客様のニーズを的確に捉えた多様なサービスや新たな商品を提供することで、東京を楽しんでもらうためのお出かけ需要・ご利用機会を創出していきます。

## ■ 東京とともに成長

沿線地域や関係者との連携を強化し、「街の地下一階の駅から街なか」までのネットワークを構築していきます。このネットワークや様々なツールを通して、東京でのお出かけがより楽しくなるよう、東京の魅力を発掘・発信し、人の動きや集まりを生み出していきます。



「メトロファミリーパーク in AYASE 2016」

## ■ 関連事業の拡大

鉄道事業とのシナジー効果の発揮を基本とした積極的な事業展開を図り、収益力向上に取り組みます。また、関連事業のさらなる成長を前提に、外部企業との業務提携やM&Aを検討するとともに、関連事業を担う人材育成の強化を図っていきます。

### ・不動産事業

駅直結のエレベーターやエスカレーター、さらには地下鉄空間と一体となった建物を整備していくことを目指していきます。

### ・流通・広告事業

お客様の利便性を高めるため、駅の工事等により創出されたスペースの開発や訪日外国人のお客様のニーズにお応えするサービスを積極的に提供していきます。



PMO半蔵門



中野坂上メトロピア

## ■ 海外鉄道事業の新たな展開

これまで培った地下鉄建設、運営・維持管理のノウハウや国際協力の経験を活かし、日本の鉄道文化に自信を持って、従来の取組から一歩踏み出して海外都市鉄道ビジネスへの参画を目指すなど、海外事業の新たな展開に力を入れていきます。



海外支援・調査箇所

## ■ 新たな事業領域への挑戦

東京メトロが保有する経営資源を活用し、新たな事業領域に挑戦していきます。

産学連携やオープンイノベーションプログラムなどを通じたベンチャー企業等との外部連携を探りながら、良き仲間とともにお互いの強みを発揮した事業に取り組み、東京メトロの成長に向けた新たな可能性を引き出します。

「Tokyo Metro ACCELERATOR 2016」



## ■ 新技術の開発・導入

鉄道の安全性、サービスの向上に加え、地域・社会環境への貢献、業務効率化の追求に向け、世界の地下鉄の最先端を行く新技術の開発・導入や、ICTの積極的な活用を通して、企業価値の向上を図っていきます。



駅構内ナビゲーションサービス実証実験の様子

# 経営基盤の強化

## ■ 環境保全活動

地球環境保全を経営課題の1つと捉え、長期的かつ戦略的に、お客様や沿線地域とともに東京の環境負荷低減につながる様々な取組を実施します。

四ツ谷駅  
太陽光発電システム(イメージ)



- 経営の仕組みの構築
- 効率的な事業運営
- オープンで生き生きとした企業風土づくり